

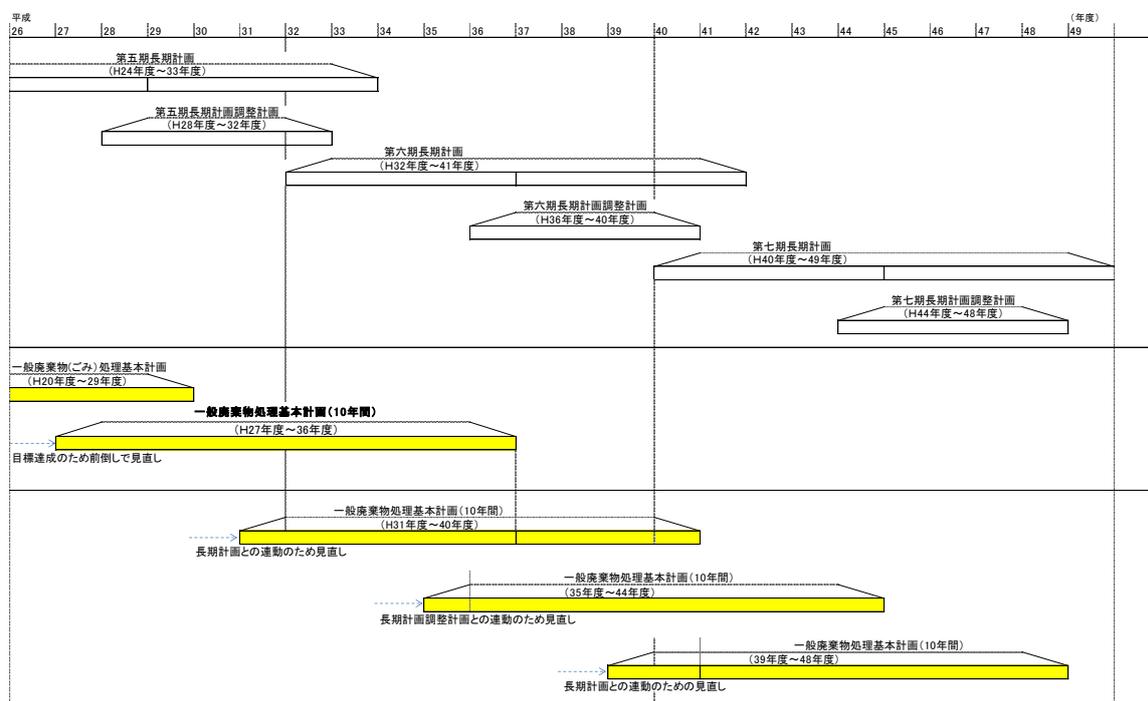
一般廃棄物処理基本計画資料修正案

目次

1. 計画期間	1
2. これまでの成果（現行計画）～実績と評価の概要～	1
(1) ごみの排出抑制と資源化	1
(2) 最終処分量	3
(3) ごみ処理・資源化コストの効率化と環境負荷の低減	5
3. ごみ排出量の将来推計	6
(1) 将来人口推計	6
(2) 産業動向	9
4. 課題の整理	11
(1) 人口推計	11
(2) ごみ排出量	12
(3) 資源化	12
5. 生活排水処理計画	13
参考資料	
(1) ごみ発生量の状況	14
(2) 資源化の状況	15

1. 計画期間

平成 31 年度から平成 40 年度までの 10 年間の計画とする。但し、本計画は長期計画及び長期計画調整計画に連動して見直しを行うものとする。



2. これまでの成果（現行計画）～実績と評価の概要～

(1) ごみの排出抑制と資源化

1) 目標値と現状

現行計画における目標達成状況を表 1 に示す。現行計画の目標年度は平成 36 年度であるため、平成 29 年度の計画値と実績の比較を行う。

市民一人 1 日当たりの家庭系ごみ排出量は、平成 29 年度の計画値 650 g に対して、実績値は 633 g と順調に推移している。また、事業系持込ごみ年間当たりの排出量は平成 29 年度計画値 6,570 t に対し 5,729 t であり、平成 36 年度の目標値 6,370 t を既に下回っている。

資源化率について、平成 27 年度以降は、各年度の計画値に達成していない（表 16）。

表 1 減量目標の達成状況（平成 29 年度）

	目標値 (H36)	H29実績	H29計画値	目標値 (H36) との比較
市民一人1日当たりの家庭系ごみ排出量	600 g/(人・日)以下	633 g/(人・日)	650 g/(人・日)	当該年度の計画値を満たし順調に推移 (目標値までさらに33g減)
事業系持込ごみ年間当たりの排出量	6,370 t/年	5,729 t/年	6,570 t/年	当該年度の計画値を満たし順調に推移 (目標値も達成)

2) ごみ排出量の推移

過去5年間のごみ排出量の実績を表2に、ごみ排出量の推移を図1に示す。

本市のごみ排出量は人口が増加しているにもかかわらず、家庭ごみ収集量、事業系ごみともに年々減少傾向にある。全国的に見てもごみ排出量は減少傾向を示している。

平成29年度の家庭系ごみ一人1日当たりの排出量は633g、ごみ全体では741gとなっている。また、事業系の持込可燃ごみの排出量は5,729tである。

現行計画の平成36年度の目標値は家庭系ごみ一人1日当たりの排出量600gで、平成29年度の計画値は650gとなっており、本市の家庭系ごみ一人1日当たりの排出量は減少傾向にあり、順調に各年度の計画値を満足している。また、事業者の搬入による可燃ごみは平成36年度の目標値は年間排出量6,370トンに対し、年々減少傾向にあり、目標値に対し平成28年度以降は少ない状況にある。

ただし、平成30年1月の中国の廃プラ・雑古紙等の輸入規制に伴う影響等で、事業者の搬入による可燃ごみ量が増加に転じており、排出傾向について注視が必要である。

表2 ごみ排出量の実績

年度	収集対象人口	家庭ごみ収集						事業者の搬入による可燃ごみ	合計	年間1人当たり排出量	一人1日当たり排出量	家庭系ごみ一人1日当たり排出量
		燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	資源ごみ	有害ごみ	収集量計					
	人	t	t	t	t	t	t	t	kg	g	g	
25	140,598	21,089	1,246	1,377	10,782	92	34,586	6,862	41,448	295	808	674.0
26	142,108	20,545	1,129	1,477	10,865	90	34,106	6,272	40,378	284	778	657.5
27	143,251	20,725	1,165	1,476	10,829	87	34,282	6,609	40,891	285	780	653.9
28	143,864	20,526	1,118	1,412	10,633	84	33,773	5,805	39,578	275	754	643.2
29	145,016	20,371	1,105	1,467	10,477	82	33,502	5,729	39,231	271	741	632.9

出典)平成26年度版 事業概要 廃棄物の抑制・再利用と適正処理(統計:平成25年度実績)

*人口は各年度10月1日付けの住民基本台帳人口で、平成23年度以前は外国人登録者含む

*粗大ごみには、粗大ごみ再生分を含む

*資源ごみは、古紙・ビン・缶・ペットボトル・その他プラスチック製容器包装の資源収集合計に、排出抑制した量(拠点回収・剪定枝木回収分)を加えたもの。剪定枝木には公園等の分は含まない(家庭から排出されたもののみ)

*集団回収分は含まない

*小数点以下は端数処理をしているので、合計が合わない場合がある

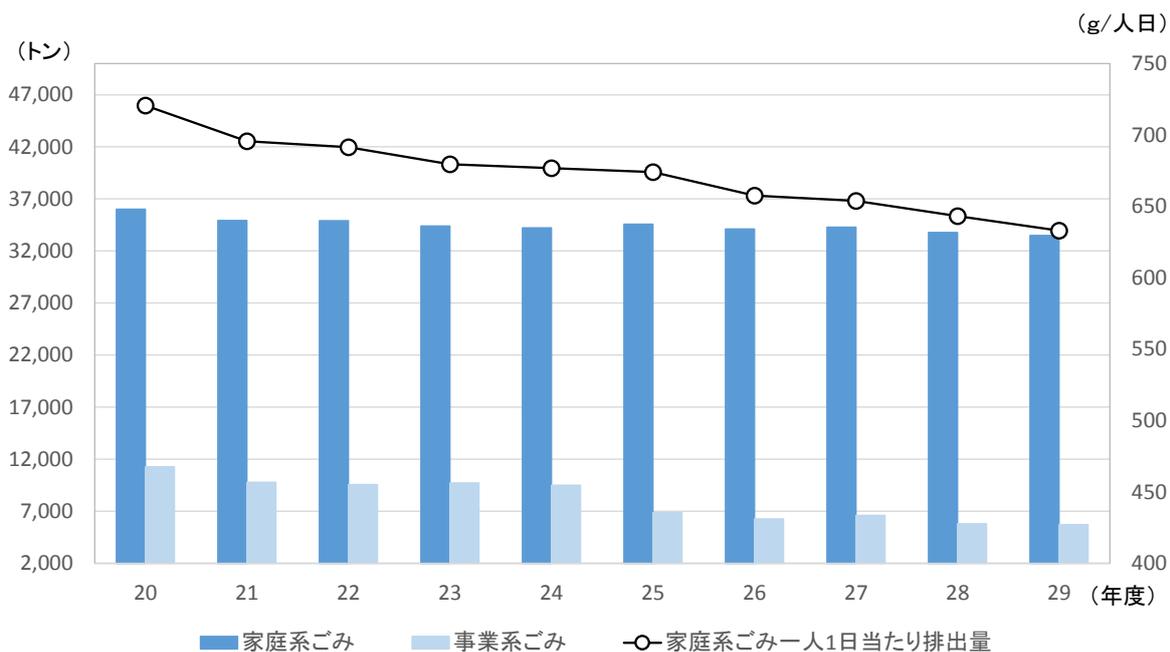


図 1 ごみ排出量の推移

3) 多摩地域における本市の状況（平成 28 年度実績）

本市における、市民一人 1 日当たりのごみ排出量（以下「原単位」という。）は 643 g（平成 28 年度）で、多摩地域の 26 市の平均 596 g と比較して多く、26 市中 23 位に位置している（表 3）。

ただし、資源ごみを除く原単位は、441 g でほぼ平均程度で、26 市中 16 位であった。資源ごみ量が多いことが本市の特徴となっている。

表 3 多摩地域における武蔵野市の一人 1 日当たりのごみ量（平成 28 年度実績）

	武蔵野市	各区分のごみ量が最大の市	各区分のごみ量が最小の市	平均*	武蔵野市の順位**
可燃ごみ	391 g	607 g	279 g	384 g	13位
不燃ごみ	21 g	87 g	12 g	38 g	5位
資源ごみ	203 g	223 g	99 g	160 g	4位
粗大ごみ	27 g	27 g	2 g	13 g	26位
有害ごみ	1.6 g	2 g	1 g	1 g	25位
小計	643 g	779 g	527 g	596 g	23位
小計 (資源除く)	441 g	638 g	362 g	436 g	16位

出典) 多摩地域ごみ実態調査 平成28年度統計

*26市の各原単位の平均値

**多摩地域26市のうち、資源を除くごみ区分は最小を1位とした場合の順位
資源は最大を1位とした

(2) 最終処分量

1) 目標と現状

表 4 最終処分量の削減目標

目標	最終処分量の削減 (東京たま広域資源循環組合の廃棄物減容(量)化基本計画で定められた配分量の順守)
実績	平成 26 年度以降 参考表 1 の割り当て量を順守している

参考表 1 最終処分場搬入配分容量(武蔵野市割り当て量)

年度	25	26	27	28	29
焼却灰(t)	2,613	2,797	2,817	2,855	2,742
不燃物(m ³)	67	57	63	0	0
計	2,680	2,854	2,880	2,855	2,742

出典) 平成 30 年版 事業概要 (統計: 平成 29 年度実績)

2) 焼却処理量と焼却残灰量等の実績

本市では、引き続き焼却灰のエコセメント化を実施し、最終処分量は 0 t を継続している (表 5)。

本市の焼却処理量と焼却残灰量等の実績を表 5、図 2 に示す。ごみ量の減少にともない、焼却処理量は減少し、焼却残渣率も減少している。本市では焼却灰のセメント化(エコセメント)を進めている。

なお、先に P16 表 15 で示した、資源化量、資源化率には焼却灰による資源化分は含まれていない。

表 5 焼却処理量と焼却残灰等の実績

年度	焼却量(t)	焼却残灰(t)	焼却残渣率(t)	焼却灰資源化(t)	資源化率	最終処分量(t)
平成20	34,967	3,534	10.107%	3,534	100.00%	0
平成21	32,818	3,246	9.891%	3,246	100.00%	0
平成22	32,742	3,256	9.944%	3,256	100.00%	0
平成23	32,800	3,256	9.927%	3,256	100.00%	0
平成24	32,508	3,192	9.819%	3,192	100.00%	0
平成25	29,929	2,956	9.877%	2,956	100.00%	0
平成26	28,793	2,794	9.704%	2,794	100.00%	0
平成27	29,376	2,849	9.698%	2,849	100.00%	0
平成28	28,247	2,647	9.371%	2,647	100.00%	0
平成29	28,052	2,635	9.393%	2,635	100.00%	0

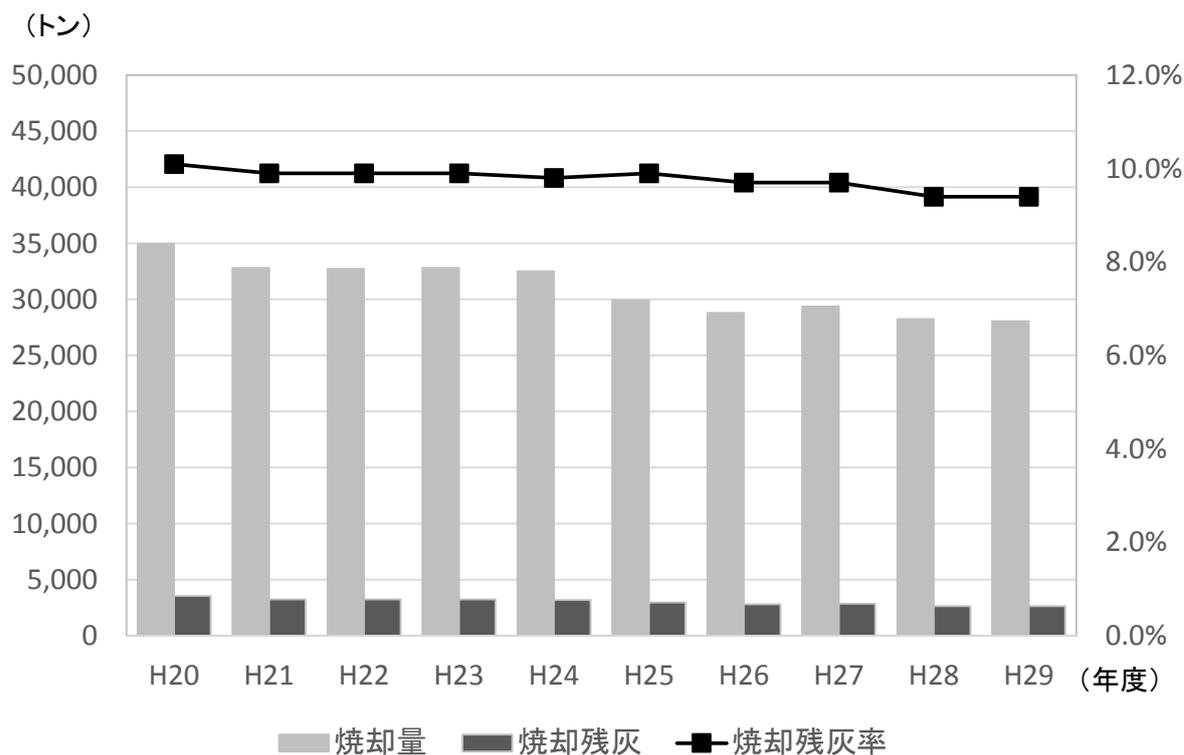


図 2 焼却処理量と焼却残灰等の推移

(3) ごみ処理・資源化コストの効率化と環境負荷の低減

1) 目標と現状

表 6 ごみ処理・資源化コストの効率化と環境負荷の低減の目標と現状

目標	現状
事業の改善及びコストの効率化（経費とその内訳のわかりやすい内容での周知）	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ収集の在り方等検討委員会による検討の結果、H31年度より収集頻度削減及び収集地区割と収集品目の平準化を行うこととした。 ・分別品目別処理費用を算出し、併せて事業概要にて周知を始めた。
クリーンセンターでの焼却処理に伴って排出される温室効果ガスの削減 （（東京たま広域資源循環組合の廃棄物減容（量）化基本計画で定められた配分量に基づく）	H29年度のクリーンセンターでの焼却による年間CO ₂ 排出量は12183352kg-CO ₂ であった。

2) ごみ処理経費の実績

本市のごみ処理経費の実績を表 7 に示す。本市のごみ処理経費は一般会計の 4 % 程度を占めている。

それぞれの部門別の割合をみると、収集・運搬経費が約 53%、中間処理費が約 29%、

最終処分費が約 14%、減量・資源化対策費が約 3%となっている。

また、家庭ごみの分別品目別処理費用を表 8 に示す。品目によって処理費用は大きく異なっている。

表 7 ごみ処理経費の実績

(単位:千円)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
収集・運搬費	1,384,222	1,431,530	1,422,276	1,411,454	1,415,226
中間処理費	1,035,425	1,010,923	959,511	734,431	757,237
最終処分費	408,653	392,222	377,244	364,687	373,079
減量・資源化対策費	98,000	82,036	82,855	82,212	79,882
ごみ処理経費計	2,926,301	2,916,711	2,841,886	2,592,784	2,625,424
ごみ処理経費(円/人)	20,847	20,514	19,840	18,017	18,133
し尿処理経費	33,269	34,337	32,624	30,015	31,808
廃棄物処理経費計	2,959,570	2,951,048	2,874,510	2,622,799	2,657,232
一般会計	59,838,464	61,779,830	65,591,758	68,518,083	63,842,725
一般会計に占める割合	4.95%	4.78%	4.38%	3.83%	4.16%

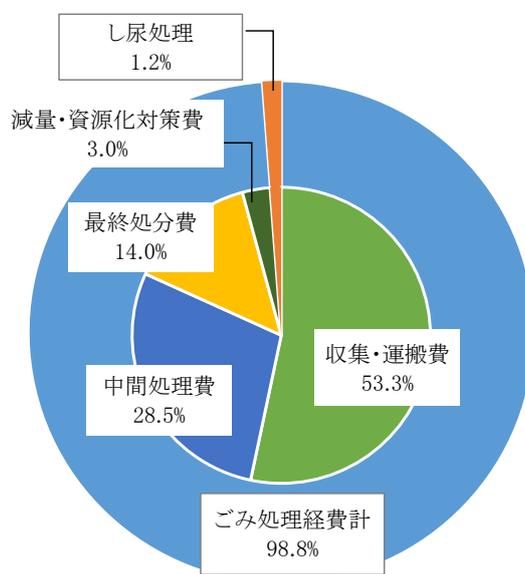


図 3 ごみ処理経費の分別割合 (平成 29 年度実績)

表 8 家庭ごみの分別品目別処理費用（平成 29 年度実績）

	収集経費 (千円)	その他*2 (千円)	経費計 (千円)	収集量 (kg)	kg当り単価 (円)
可燃・不燃ごみ	424,818	533,403	958,221	21,475,530	44.6
資源物(びん)	94,880	4,620	99,500	1,435,460	69.3
資源物(古紙・古布)	219,364	-67,544	151,820	6,000,660	25.3
資源物(缶)	126,425	-38,629	87,796	444,400	197.6
資源物(ペットボトル)*3	89,282	-17,815	71,467	452,210	158
資源物(その他プラ容器)*3	195,929	-8,519	187,410	1,903,010	98.5

*2:「その他」はごみ処理手数料(ごみ袋代)、売り払い代金や保管料・処理委託料等。可燃・不燃ごみには中間処理費および最終処分費が含まれる。本表は行政収集にかかる費用で、小規模事業所から排出されたごみを含むが民間搬入は含まない。

*3: ペットボトルとその他プラ容器の収集経費は、回収車両台数に基づき按分し算出したものである。

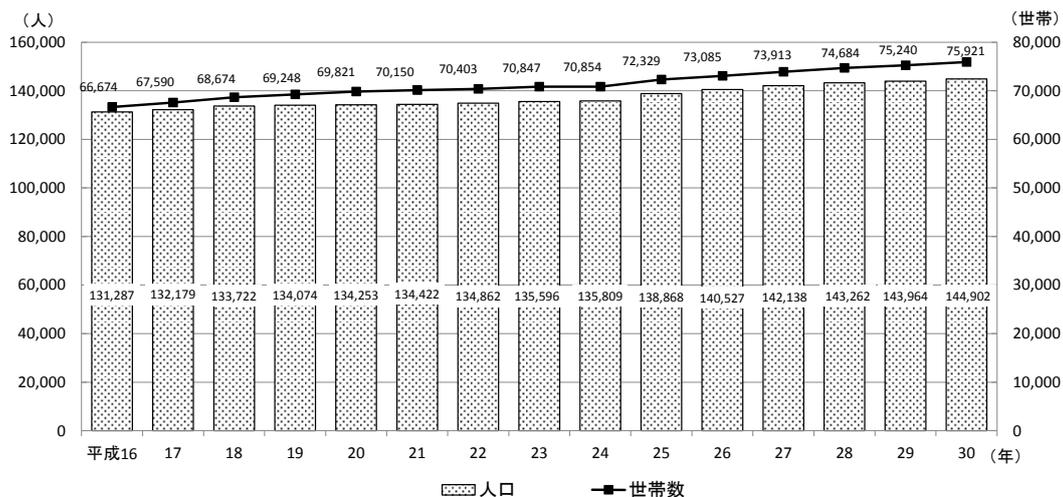
3. ごみ排出量の将来推計

(1) 将来人口推計

1) 人口と世帯数の現状

本市の人口は平成 30 年 1 月 1 日現在 144,902 人で、世帯数は 75,921 世帯となっており、平成 21 年からの 10 年間で、約 8%増加している。

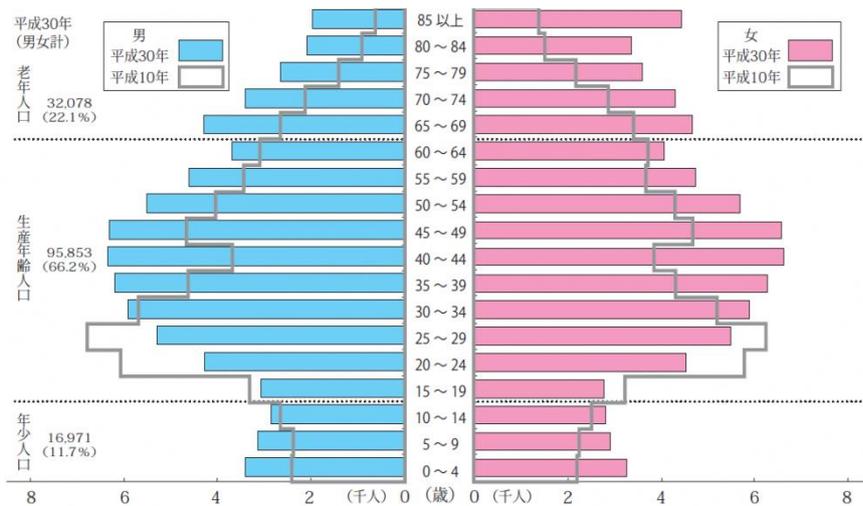
また、本市の将来人口予測は増加傾向にあり、また、高齢人口割合も増加の一途をたどり、年少人口、生産年齢人口ともに減少している。



注 1 : 住民基本台帳による各年 1 月 1 日現在人口

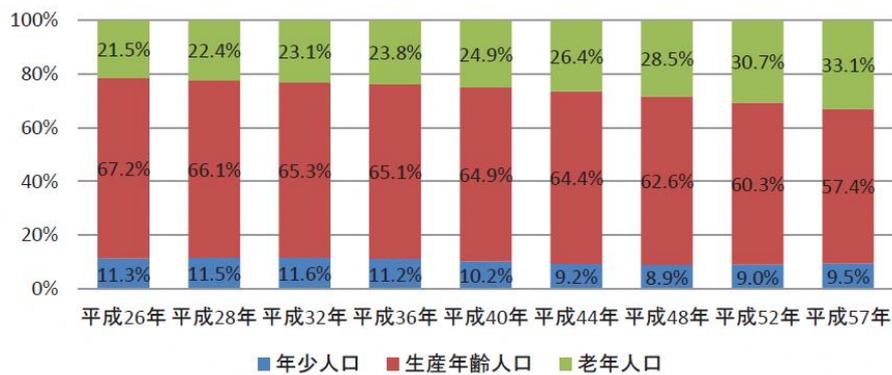
出典 : 平成 29 年版 統計でみる武蔵野市

図 4 人口及び世帯数の推移



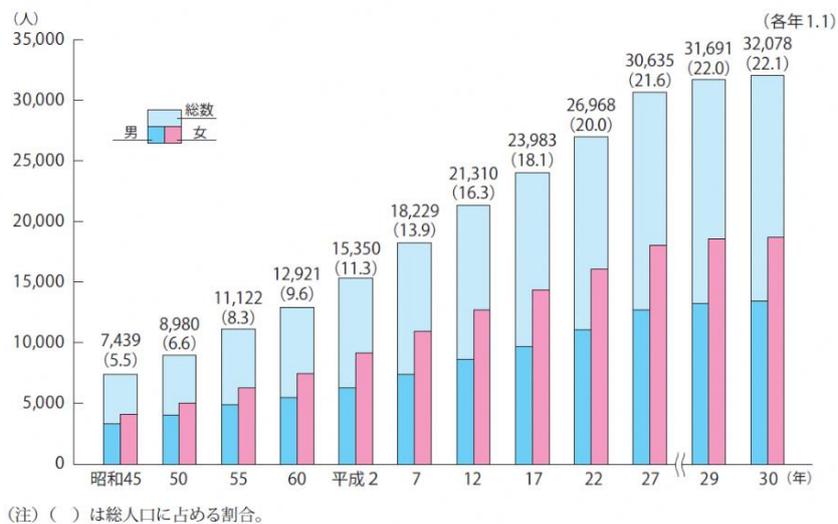
出典：統計でみる武蔵野市 平成 29 年度版

図 5 男女別年齢 5 歳階級別人口実績



出典：武蔵野市の将来人口推計（平成 26 年～平成 57 年） 武蔵野市 平成 26 年 9 月

図 6 将来年齢 3 区分人口比率



出典：統計でみる武蔵野市 平成 29 年度

図 7 高齢者人口（65 歳以上）の推移

2) 将来人口推計

人口推計は市の推計値（武蔵野市の将来人口推計（平成 30（2018）年～平成 60（2048）年）について【速報版】）を用いた。

武蔵野市の推計値は 5 年間隔となっているため、推計値がない年度は一次式で補完した。

その結果は表 9、図 8 に示す通りである。

武蔵野市は 2048 年まで増加傾向が続くと予測されており、2048 年には 161,786 人と推計している。

今回策定の一般廃棄物処理基本計画の目標年度の 2028 年度（2029 年 1 月 1 日）の推計値は 154,555 人である。初年度の 147,248 人から約 7,300 人、5%の増加となっている。

表 9 将来人口推計結果

年	実績	市の推計値	各年推計値
2018	H30	144,898	144,898
2019			146,073
2020			147,248
2021			148,423
2022			149,598
2023		150,772	150,772
2024			151,444
2025			152,116
2026			152,788
2027			153,460
2028		154,130	154,130
2029			154,555
2030			154,980
2031			155,405
2032			155,830
2033		156,256	156,256

※各年1月1日人口

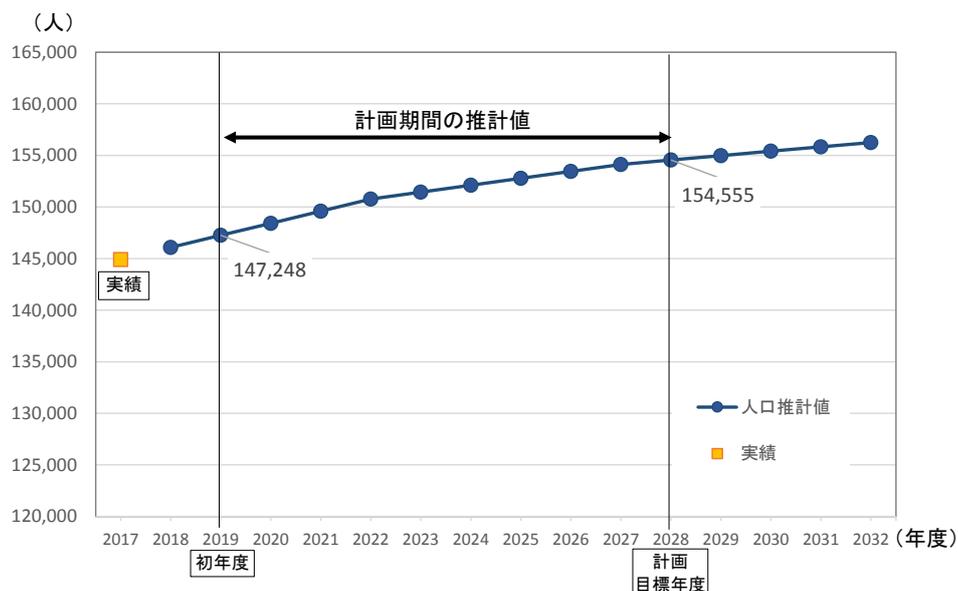


図 8 将来人口推計結果

(2) 産業動向

1) 事業所数、従業者数の動向

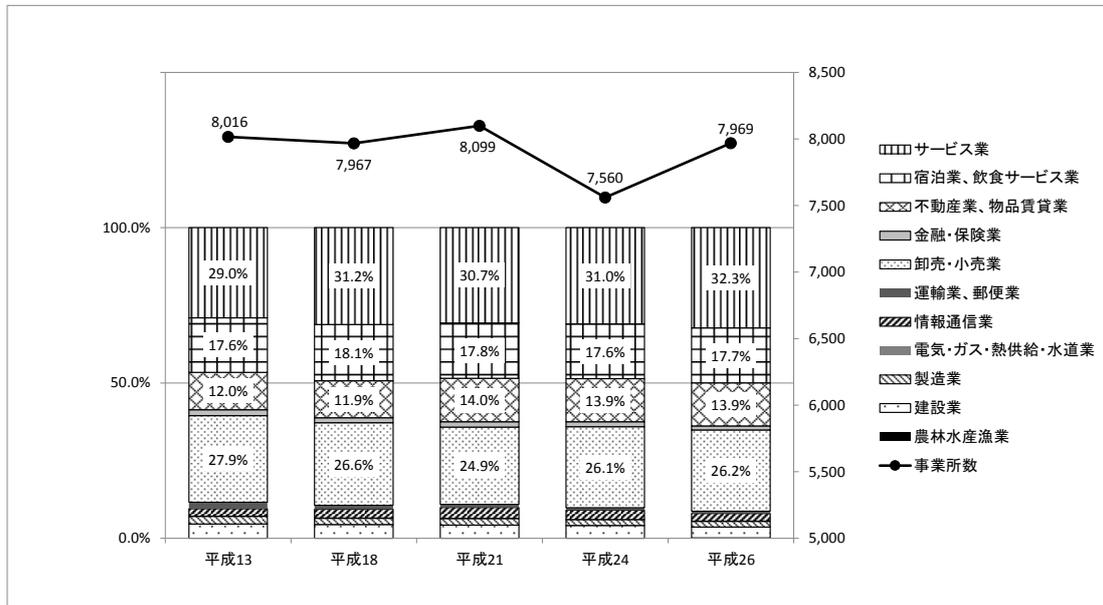
本市の事業所数、従業者数の推移と業種割合を

図 9 に示す。

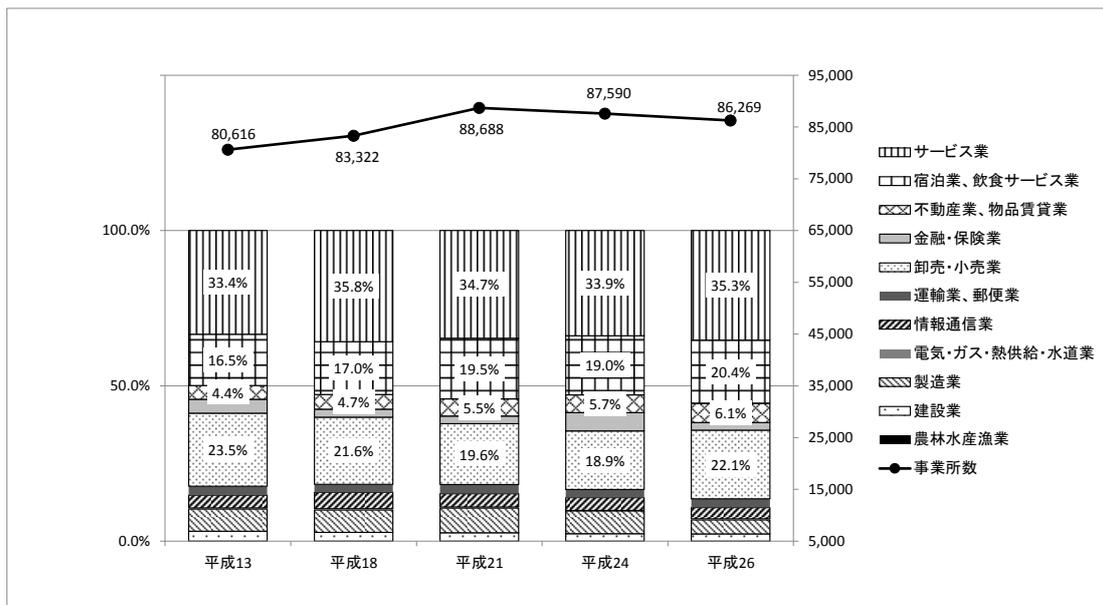
事業所数は平成 24 年を除くと、ほぼ横ばいで推移し、従業者数は平成 21 年以降微減傾向にある。

業種別には、事業所数は「卸売・小売業」が最も多く、従業者数は「卸売・小売業」「宿泊業、飲食サービス業」が同程度で多くなっている。

[事業所数]



[従業者数]



※公務（他に分類されないもの）を除く

出典：2017年版 市勢統計

図 9 事業所数、従業者数の業種別割合

2) 商業における大規模事業者の動向

前計画策定時は、駅舎等の改修工事が進められていた時期であり、平成26年には吉祥寺駅南北自由通路がリニューアルされるとともに、吉祥寺駅舎工事が完了しました。また、駅舎等の改修工事とともに、いわゆる「エキナカ」の商業施設が新設・リニューアルされています。(平成25年nonowa武蔵境、平成26年キラリナ京王吉祥寺)

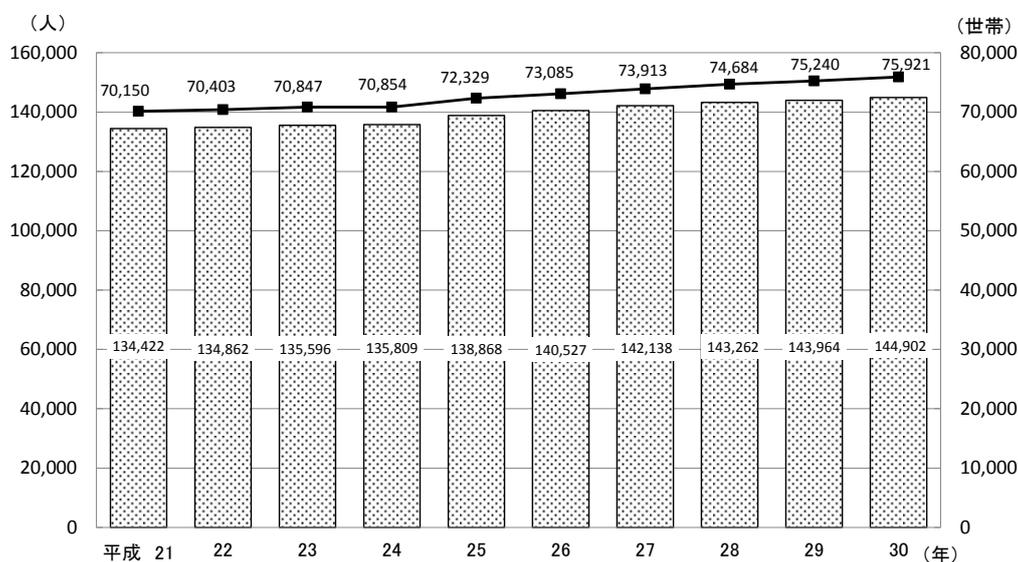
また、駅周辺の商業施設についても、既存施設のテナントの変更に伴うリニューアル(平成22年コピス、平成25年ドン・キホーテ吉祥寺駅前店)や大規模店舗の新設開店(平成26年ユニクロ吉祥寺店、LABI吉祥寺)が行われました。

前計画策定後から現在にかけては、平成28年に武蔵境駅北口駅前広場が完成し、平成30年に武蔵境駅北口にQUOLAが新設されましたが、市内での大規模商業施設の動きは一段落しています。

4. 課題の整理

(1) 人口推計

本市の人口は継続的に増加傾向にある。平成21年から平成30年までの10年間で、人口が約10.5千人(約8%)、世帯数が5.8千世帯(約8%)増加している(図10)。



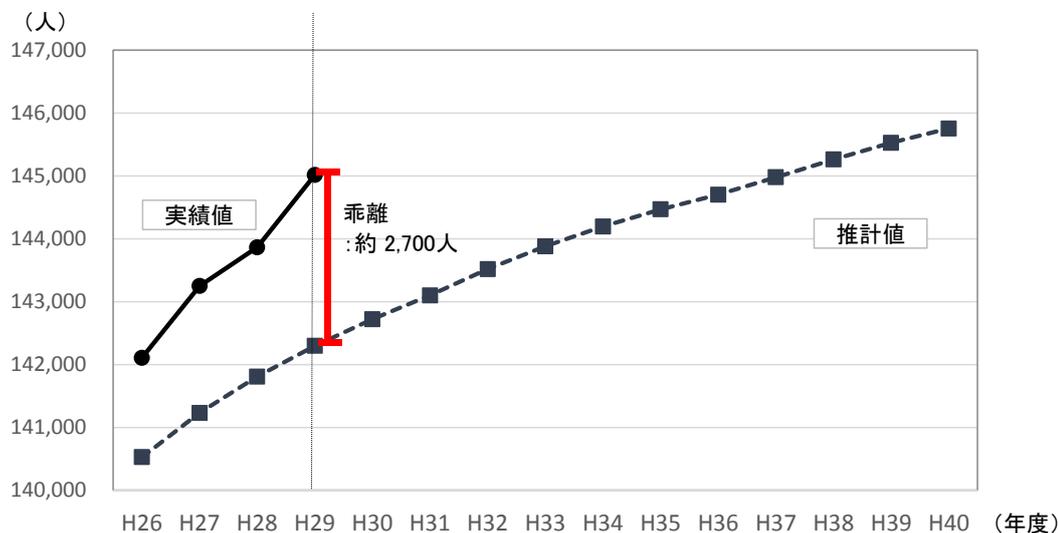
(注) 1 住民基本台帳による。(各年1月1日現在)

2 平成25年より外国人住民を含む。

出典)平成29年版 統計でみる武蔵野市

図10 人口と世帯数の実績の推移

そのため、現計画の将来人口は武蔵野市の将来人口推計を基にしているが、図 11 に示すように、平成 26 年の基準人口から平成 30 年までの 4 年間で約 2,700 人の差が生じている。



実績値:各年度10月1日付け人口の住民基本台帳人口

図 11 将来人口推計と実績値

(2) ごみ排出量

本市のごみ排出量は人口の増加にも関わらず、家庭系、事業系ごみともに、順調に減少傾向を示している。

一方、多摩地域内で比較すると表 3 に示すように、ごみの総原単位では、多摩地域の平均 596 g に対し、本市は 643 g と 47 g 多く、順位も 23 位である。ただし、資源ごみを除く原単位を見ると、平均 436 g に対し、本市は 441 g とほぼ平均値となっている。

このことから、本市では資源ごみ量が多いことが分かる。

資源をごみとしないための、分別の徹底は重要施策であるが、今後は、発生抑制への取組がさらに必要になる。

(3) 資源化

資源化率は各年度の計画値に達成していない(表 10)。発生抑制を推進しながらも、可燃ごみ、不燃ごみとして廃棄される資源化物の分別を引き続き推進する必要がある。

また、可燃ごみ、不燃ごみ中に含まれる資源化物の実態の継続的な把握が必要である。

表 10 資源化率の推移

	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成36
計画値	33.31%	33.60%	34.00%	34.53%	35.08%	39.63%
実績値	33.3%	34.1%	33.4%	33.7%	33.5%	—

※エコセメントによる資源化は含まない。

5. 生活排水処理計画

本市では公共下水道処理面積、推定処理人口及び普及率は100%、水洗化人口は99.99%である（表11）。

し尿処理量は、開発に伴う仮設トイレの設置個数やビルのし尿槽の清掃頻度により変動しています（表12）。し尿処置施については施設の老朽化に伴い、処理量に見合った新処理施設が平成28年4月から、稼働を開始している（表13）。

表11 公共下水道処理面積、推定処理人口及び普及率（各年10月1日）

年度	住民基本台帳人口(A)	排水面積(B):ha	処理面積(C):ha	推定処理人口(D)	水洗化人口(E)	面積(C/B)	処理対象(D//A)	水洗化人口(E/A)
平成24	138,582	1,073	1,073	138,582	138,573	100.0%	100.0%	99.99%
平成25	140,598	1,073	1,073	140,598	140,589	100.0%	100.0%	99.99%
平成26	142,108	1,073	1,073	142,108	142,099	100.0%	100.0%	99.99%
平成27	143,251	1,073	1,073	143,251	143,242	100.0%	100.0%	99.99%
平成28	143,864	1,073	1,073	143,864	143,855	100.0%	100.0%	99.99%
平成29	145,016	1,073	1,073	145,016	145,008	100.0%	100.0%	99.99%

*住民基本台帳人口は10月1日現在の数字、外国人登録人口を含む。

*水洗化人口には、し尿槽人口を含む。

表12 し尿処理量の推移

年度	総人口(人)	下水道人口(人)	浄化槽人口(人)	し尿人口(人)	し尿収集量(kL)	直営(kL)	委託(kL)	し尿槽清掃(kL)
平成25	140,598	140,589	—	9	121	—	121	60
平成26	142,108	142,108	—	9	91	—	91	65
平成27	143,251	143,251	—	9	80	—	80	72
平成28	143,864	143,864	—	9	74	—	74	83
平成29	145,016	145,008	—	8	91	—	91	112

*住民基本台帳人口は10月1日現在の数字、外国人登録人口を含む。

*し尿収集量には、仮設便所汲取量を含む。

表13 し尿処理施設の概要

設立年月日	昭和36年6月1日
名称	湖南衛生組合（湖南処理場）
所在地	東京都武蔵村山市大楠5丁目1番地
構成団体	武蔵野市、小金井市、小平市、東大和市、武蔵村山市
組織	組合議会議員10名（平成23年4月1日より） 管理者1名、副管理者4名、監査委員2名 会計管理者1名 一般職員3名
能力	4.1kL/日 前処理希釈放流方式

参考資料

(1) ごみ発生量の状況

ごみは排出量に集団回収量や拠点回収などの排出抑制分を加えたごみ量をごみ発生量とする(表 14)。

ごみ発生量も年々減少傾向にあり、平成 29 年度のごみ発生量の実績は 42,236 t で、平成 25 年度から約 6%減少している。

事業系に関しては、事業系一般廃棄物処理手数料が平成 25 年 4 月から 1 kg40 円に改定されたことにより、リサイクルが促進され可燃ごみの搬入量が減少している。

表 14 ごみ発生量の実績

		年度	実績					
			2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	
人口		人	140,598	142,108	143,251	143,864	145,016	
世帯数								
収集量	家庭ごみ	燃やすごみ	t	21,089	20,545	20,725	20,526	20,371
			g/人日	411	396	395	391	385
		燃やさないごみ	t	1,246	1,129	1,165	1,118	1,105
			g/人日	24	22	22	21	21
		粗大ごみ	t	1,377	1,477	1,476	1,412	1,467
			g/人日	27	28	28	27	28
		資源ごみ	t	10,782	10,865	10,829	10,633	10,477
			g/人日	210	209	207	202	198
		資源収集計	t	10,500	10,595	10,567	10,380	10,235
			g/人日	205	204	202	198	193
		拠点(紙パック)	t	31	25	26	24	24
			g/人日	0.60	0.48	0.50	0.46	0.45
		拠点(廃食用油)	t	1	1	1	1	1
			g/人日	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
	拠点回収細計	t	32	26	27	25	25	
		g/人日	0.62	0.5	0.51	0.48	0.47	
	剪定枝木(家庭分) (H20投棄古紙回収)	t	249	243	236	228	217	
		g/人日	4.85	4.68	4.5	4.34	4.1	
	有害ごみ	t	92	90	87	84	82	
		g/人日	1.79	1.74	1.66	1.60	1.55	
小計			34,586	34,106	34,282	33,773	33,502	
	g/人日		674	658	654	643	633	
事業系	可燃(持ち込み)	t	6,862	6,272	6,609	5,805	5,729	
		t/日	18.8	17.2	18.1	15.9	15.7	
	剪定枝木	t	90	92	96	84	99	
	g/人日	1.75	1.77	1.83	1.6	1.87		
小計			6,952	6,364	6,705	5,889	5,828	
	g/人日		135	123	128	112	110	
合計	t	41,538	40,470	40,987	39,662	39,330		
	g/人日	809	780	782	755	743		
集団回収		t	3,421	3,328	3,231	3,051	2,906	
	g/人日	67	64	62	58	55		
発生量	家庭系ごみ 計 (集団回収を含む)	t	38,007	37,434	37,513	36,824	36,408	
		g/人日	741	722	715	701	688	
	事業系ごみ 計	t	6,952	6,364	6,705	5,889	5,828	
		t/日	19	17.4	18.3	16.1	16	
合計	t	44,959	43,798	44,219	42,713	42,236		
	g/人日	876	844	843	813	798		
	t/日	123.2	120.0	120.8	117.0	115.7		

(2) 資源化の状況

総資源化量と資源化率の推移を図 12 に、家庭系の資源化量と資源化率の推移を図 13 に示す。資源化量は減少傾向にあるが、ごみ排出量の減少に伴い、総資源化率は 33% 程度を横ばいで推移している。また、家庭系資源化率は 38% 程度で微減傾向にある。

資源化率を収集量ベースでみると、平成 29 年度実績で総資源化量は約 13.8 千 t、資源化率は約 33% である。家庭系の資源化量は約 13.7 千 t、資源化率は約 38% である。

また、施設による金属などの資源回収分を含めた処理量ベースでみると、平成 29 年度実績で約 14.1 千 t、資源化率は約 34% であった。また、資源化率は 33% 前後で推移している。(表 15、表 16)。

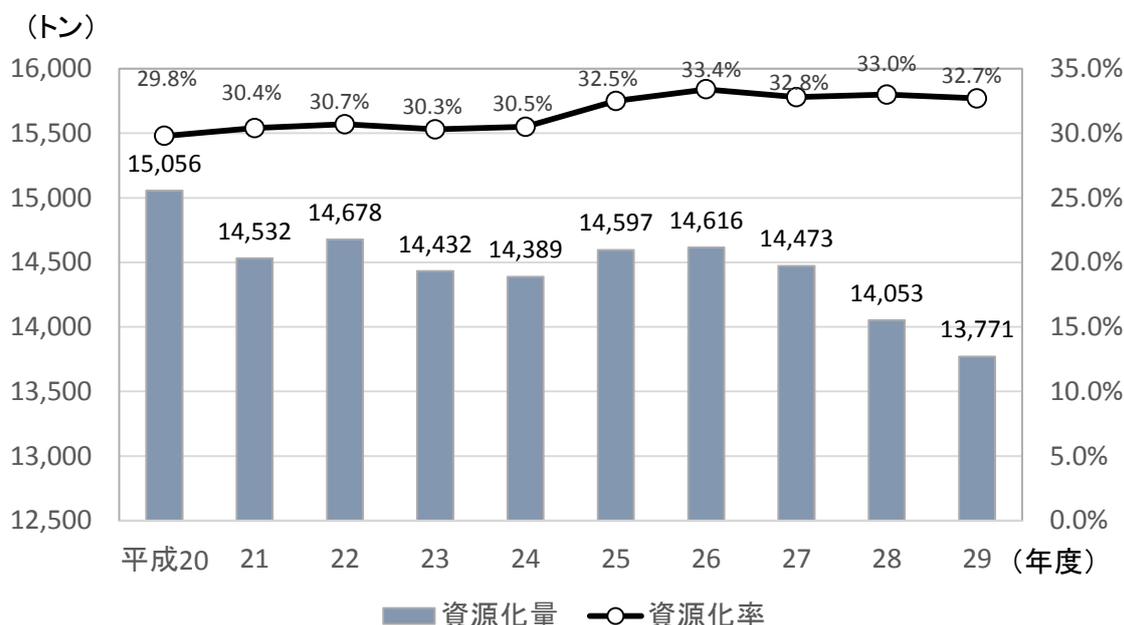


図 12 総資源化量と資源化率（収集量ベース）の推移

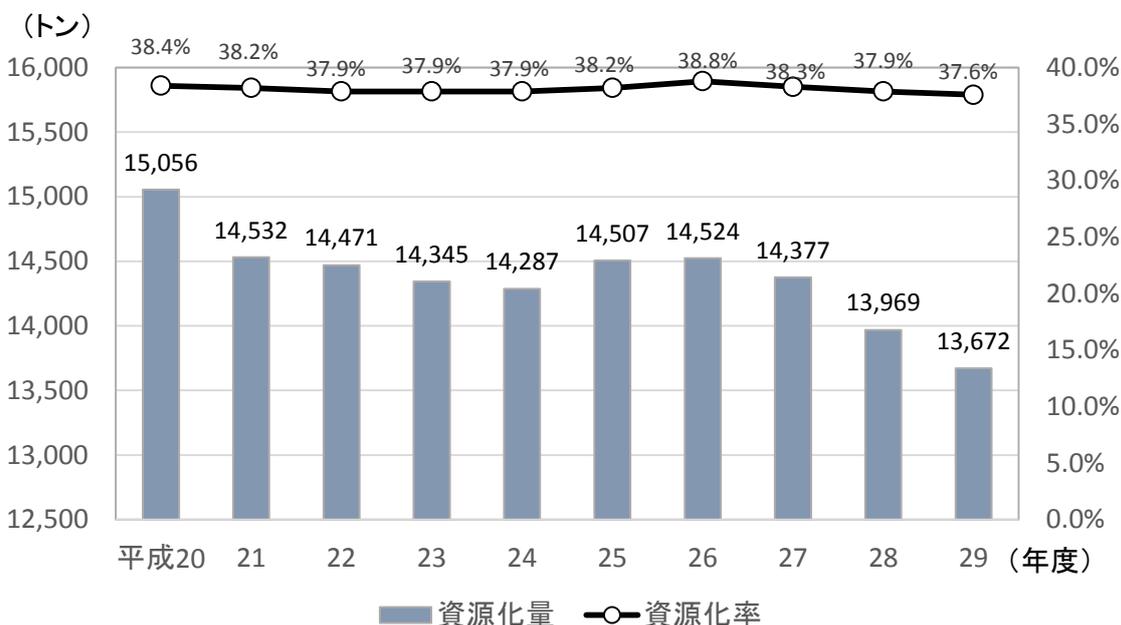


図 13 家庭系資源化量と資源化率（収集量ベース）の推移

表 15 資源化量の実績

			年度	実績					備考		
				2013 H25 365	2014 H26 365	2015 H27 366	2016 H28 365	2017 H29 365			
人口		人	140,598	142,108	143,251	143,864	145,016				
ごみ排出量	家庭系	①ごみ排出量計	t	34,586	34,106	34,282	33,773	33,502			
		②集団回収量	t	3,421	3,328	3,231	3,051	2,906			
	③総ごみ排出量（集団回収含む）		t	38,007	37,434	37,513	36,824	36,408			
	④事業系		t	6,952	6,364	6,705	5,889	5,828			
	⑤合計（集団回収を含まない）		t	41,538	40,470	40,987	39,662	39,330			
	⑥合計（集団回収を含む）		t	44,959	43,798	44,218	42,713	42,236			
資源	家庭系	⑦資源ごみ		t	10,782	10,865	10,829	10,633	10,477		
				g/人日	210	209	207	202	198		
			資源化率（⑦/①）		%	31.2%	31.9%	31.6%	31.5%	31.3%	収集量ベース
	資源収集	古紙	t	6,251	6,305	6,277	6,158	6,001			
			g/人日	122	122	120	117	113			
		ビン	t	1,485	1,470	1,791	1,464	1,434			
			g/人日	29	28	34	28	27			
		缶	t	485	475	464	454	444			
			g/人日	9	9	9	9	8			
		ペットボトル	t	480	473	476	452	452			
			g/人日	9	9	9	9	9			
		その他プラ容器	t	1,798	1,873	1,859	1,852	1,903			
			g/人日	35	36	35	35	36			
	細計		t	10,499	10,596	10,867	10,380	10,235			
			g/人日	205	204	207	198	193			
	拠点回収	拠点（紙パック）	t	31	25	26	24	24			
			g/人日	0.60	0.48	0.50	0.46	0.45			
		拠点（廃食用油）	t	1	1	1	1	1			
			g/人日	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02			
	拠点回収細計		t	32	26	27	25	25			
			g/人日	0.62	0.5	0.51	0.48	0.47			
	剪定枝木（家庭分） （H20:投棄古紙回収）		t	249	243	236	228	217			
			g/人日	4.85	4.68	4.50	4.34	4.10			
	⑧集団回収		t	3,421	3,328	3,231	3,051	2,906			
			g/人日	67	64	62	58	55			
	⑨粗大ごみ再生		t	304	331	317	285	289			
			g/人日	6	6	6	5	5			
⑨合計		t	14,507	14,524	14,377	13,969	13,672				
		g/人日	283	280	274	266	258				
		総資源化率（⑨/③）		%	38.2%	38.8%	38.3%	37.9%	37.6%	収集量ベース	
事業系		⑩剪定枝木（公園分）		t	90	92	96	84	99		
⑩総資源化量（⑨+⑩）		t	14,597	14,616	14,473	14,053	13,771				
資源化率（⑩/⑥）		%	32.5%	33.4%	32.7%	32.9%	32.6%		収集量ベース		
処理量	資源収集		t	10,220	10,307	10,261	10,116	9,953			
	古紙		t	6,179	6,232	6,204	6,084	5,928			
	びん		t	1,415	1,406	1,432	1,412	1,374			
	缶		t	455	443	427	422	417			
	スチール		t	273	256	229	215	193			
	アルミ		t	182	187	198	207	225			
	ペットボトル		t	458	449	447	433	429			
	その他プラ容器		t	1,713	1,777	1,750	1,765	1,805			
	選別金属回収		t	589	578	577	593	642			
	鉄回収		t	537	526	524	533	563			
	アルミ回収		t	52	52	53	60	79			
	都市鉱山		t	65	43	44	30	1			
	拠点回収		t	32	26	27	25	25			
	集団回収		t	3,420	3,328	3,231	3,051	2,906			
	粗大ごみ再生		t	299	325	310	281	286			
	搬入古紙回収		t	11	10	7	5	5			
	剪定枝回収		t	339	335	332	312	316			
	合計		t	14,976	14,953	14,790	14,413	14,132			
	資源化率（⑩/⑥）		%	33.3%	34.1%	33.4%	33.7%	33.5%		処理量ベース	

表 16 資源化率の推移

	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成36
計画値	33.31%	33.60%	34.00%	34.53%	35.08%	39.63%
実績値	33.3%	34.1%	33.4%	33.7%	33.5%	—

※エコセメントによる資源化は含まない。